

生涯を完結できる まちづくり

平成21年3月定例市議会が、2月20日から3月18日まで開かれ、平成21年度予算などの62議案が審議されました。本号では、同議会の冒頭に小泉市長が行った施政方針演説の概要についてお知らせします。



100年に一度といわれる金融危機を契機に世界的な景気後退が見られる中で、我が国の経済は雇用情勢が急速に悪化し、企業の経営状況も厳しいものとなつていきます。この経済危機の中でも、市民生活の不安を解消するとともに地域の実情に応じた適切な対策を講じていくことが必要です。

平成21年度の予算編成では、「生涯を完結できるまちづくり」の実現に向けて、「総合5か年計画2006」に基づき事業を推進するとともに、将来にわたって持続

可能な財政構造を構築するため、効率的かつ効果的な予算編成に努めたところです。

平成21年度一般会計では、対前年度比4・4%増の569億円、水道事業会計を含む特別会計を加えた全会計では、対前年度比2・2%増の795億円余の積極予算を編成しました。

**世界との交流拠点として
市民が誇れる都市づくり**

さらなる発展を見据え

成田国際空港は、昨年5月に開

港30周年という大きな節目を迎え、我が国を代表する国際拠点空港として、その役割を担い続けており、本市も空港を核に飛躍的な発展をしてきました。

2、500mの平行滑走路については、平成21年度内の供用開始を目指して工事が順調に進められています。さらには、1月23日に開催されました成田空港に関する四者協議会では、拡大する首都圏の国際航空需要に対応するため、さらなる容量拡大に向けて、騒音区域の見直しや環境対策、地

域共生策の検討を始めることで、国、県、空港会社、空港周辺9市町が同意したところです。

平成21年度は、(仮称)久住パークゴルフ場の整備をはじめとして、これまで同様、環境対策、共生策などに取り組んでいきたいと考えています。

アクセス整備の推進

成田国際空港と都心とを36分台で結び、地域振興にとって非常に大きな役割を担うこととなる成田新高速鉄道については、平成22年春の開業に向けて、急ピッチで事

業が進められており、本市も、これらの事業の推進にできる限りの協力をしていきたいと考えています。

その中で、(仮称)成田ニュータウン北駅の開業に伴う新駅周辺整備については、駅前広場とアクセス道路の整備を推進し、併せて今後のまちづくりについて、関係者の皆様のご意見を尊重しながら検討していきます。また、(仮称)土屋駅の設置については、その実現に向け、引き続き積極的に取り組んでいきます。



急ピッチで整備が進む(仮称)成田ニュータウン北駅(松崎)

さらに、国際空港都市づくりの骨格をなす北千葉道路整備事業、首都圏中央連絡自動車道整備事業については、地元住民の皆様との意見を十分にお聴きし、事業者と協議をしながらその促進を図るとともに、都市計画道路の湯川線やニュータウン中央線、大蕨新宮線、赤坂台方線、大袋線についても整備を進めていきます。

J・R・京成成田駅中央口地区の整備については、駅前再開発事業の都市計画の手續きを進め、一日も早い実現に向け鋭意努めていきます。

市民の重要な交通手段となるコミュニティバスについては、大室・小泉ルートをはじめ7路線で本格運行を行っています。昨年度設置しましたコミュニティバス

等交通会議におきまして、利用者の声や意見などをお聴きしながら、地域の需要に対応した運行を検討し、交通の不便な地域と公共施設を結ぶ有効な交通手段として充実を図っていきます。

また、交通バリアフリー化推進事業として、高齢者や障がい者などの移動の安全性や利便性の向上を図るため、京成成田駅におけるエレベーターの設置について、助成をしていきます。

市民がいきいき働く 活力ある産業の育成

「訪れて良し」の成田へ

観光は地域の活力や文化を内外に発信する有力な手段であり、各種産業の活性化や豊かな市民生活の実現につながります。

私も「観光のまち成田」のトップセールスマンとして、ベイエフエムなどを活用して成田のイメージを広く市内外にPRするとともに、観光立市をさらに推進し、観光客の皆様「訪れて良し」と満足していただける観光行政を展開していきます。

迅速な中小企業支援を

かつてないほどの厳しい経済状況の中、中小企業資金融資制度の運用を迅速に行うとともに、利子

の一部を助成することにより市内の中小企業を支援していきます。また、市内商工業の総合的な振興を図るため、市内商工業団体に対して助成を行うとともに、企業誘致の推進、地域活性化事業の支援を行っていきます。

農業の基盤強化

農業を取り巻く環境が依然として厳しい中、国においては、国民に安心を、農業者に希望をもたらす新しい農政を展開するため、食料・農業・農村基本計画を見直すこととしたところです。

こうした農政改革を踏まえ、担い手の育成確保などの農業経営の基盤強化や生産基盤の整備などに努めていきます。また、農業の普及宣伝などを図るため、俳優の永島敏行さんに成田市農業大使をお願いしたところであり、地産地消の促進、ブランド商品の育成や消費者ニーズに対応した高付加価値農業などの支援とともに、農業のPR、都市と農村の交流などを進めていきます。

さらに、平成21年度から新たに食育を推進するため、農業・教育・保育・保健など、食にかかわる広範な取り組みなどの連携を図り、本市食育推進計画の策定に取り組んでいきます。



成田市農業大使に俳優の永島敏行さんが

市民一人ひとりが健康で 生きがいを持った生活の支援

安心の子育てを

少子化が進行する中、子どもを安心して生み、育てることのできる環境の整備が必要です。そこで、母体や胎児の健康の確保を図るために、妊婦が健康診査の費用を心配せずに済むよう、公費負担の回数を現在の5回から14回に拡大し、母子保健の充実に努めていきます。

保育園と児童ホームの整備については、現在中台地先に建設中の保育園を、中台第二保育園として4月から開園します。また、神宮寺児童ホームの建設、加良部児童ホームの増築を行うとともに、閉校後の豊住中学校の教室を利用し

た豊住児童ホームを4月に開所します。

健康・いきがいがづくりを支援

がん検診などの充実を図るとともに、80歳になっても20本以上自分の歯を保とうという「8020運動」を推進するため、成人歯科検診の対象を40歳以上の市民に拡充し、口腔保健の充実に向けていきます。

高齢者福祉については、住み慣れた地域でいつまでも安心して生活が送れるよう包括的かつ継続的支援を行うとともに、在宅介護支援や介護予防サービスの充実を図っていきます。また、高齢者教養講座の開催のほか、老人クラブやシルバー人材センターの活動を支援するなど高齢者の社会参加や生きがいがづくりに努めていきます。

障がい者福祉については、これまで、身体障がい・知的障がい者の方々を対象としていた福祉タクシー料金助成事業に、精神障がい者に加え、障がい者の社会参加の促進を図っていきます。

市民が地域文化を愛し、

次代を担う心豊かな人材の育成

学校の適正配置

昨年3月に取りまとめた学校適

正配置案に基づき、保護者や地域の皆様に説明し、協議を重ねてきましたが、4月に豊住中学校と成田中学校の統合が実現することとなりました。

平成21年度は、この統合が実現して良かったと思えるように、子どもたちの支援を進めるとともに、今後も学校適正配置案に基づき、議会や地域の皆様と十分協議を行いながら、子どもたちにとってより良い教育環境の実現に努めていきたいと考えています。

進む教育環境の整備

本市では、児童生徒一人一人に目が行き届く日本でもトップレベルの教育環境の充実が図られているところです。特に、本市独自の学力向上策としては、きめ細かな指導を行うための少人数学習推進教員や特別支援教育支援員、複式学級となるような小規模校の教育の充実のために配置する小規模学校支援教員、養護教諭とともに児童生徒の心と身体の健康に努める健康推進教員などを配置しています。これにより、学校規模の大小にかかわらず、児童生徒にきめ細かな指導を行い、さらなる学力の向上を目指し、多様な教育支援策を積極的に行っていきます。

本市の特徴的な教育の一つであ



一人一人に目が行き届く、きめ細かな指導を

る英語教育については、小学校31校・中学校9校において英語科を設置し、英語によるコミュニケーション能力の基礎を育成するため、引き続き全小中学校に外国人英語教師を配置し、実践的な英語教育を推進していきます。

また、児童生徒をめぐる問題などが長期化・複雑化することを防止し、解決に向けて対応するため、平成21年度から、有識者や弁護士などの専門家による成田市学校問題解決支援チームを編成し、学校が本来の役割である教育活動に専念できるよう支援していきます。

学校設備整備については、下総中学校校舎耐震補強や大規模改修工事をはじめ、引き続き小中学校校舎や屋内運動場などの耐震補

強工事・補強設計を推進していきます。また、中学校の普通教室にエアコンを設置し、教育環境の整備を進めるとともに、学校適正配置により中学校分校分離新設校の測量・地質調査・基本設計などに着手していきます。

学校給食については、栄養豊かでバランスの取れたおいしい給食を提供するとともに、食材の使用については、主食となる米はもとより、生鮮野菜についても地産地消、食育の観点から極力成田産を使用し、今後もより安全・安心な給食の提供に努めていきます。

生涯学習の推進

生涯学習のさらなる推進のため、「明治大学・成田社会人大学」「高等学校等開放講座」「生涯大学院」のより一層の充実を図っていきます。

また、「まなび&ボランティアサイト」などの生涯学習情報の提供や、地域の皆様の参画を得て子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動などを行う「放課後子ども教室推進事業」の拡充を図るとともに、家庭における教育力の向上を目指し、幼児期・小中学校家庭教育学級の開催に努めていきます。

また、文化活動の拠点施設であ

る成田国際文化会館の老朽化に伴い、より使いやすくなるための建て替えを前提とした基本構想を策定していきます。

生涯スポーツの振興

昨年は、第29回オリンピック競技大会が中国・北京で開催され、夢と感動を与えてくれた年でありました。

スポーツを愛し、スポーツを通して健康な心と体を育み、明るく豊かな成田市を築くことを目的とする「スポーツ健康都市宣言」の趣旨を踏まえ、引き続き市民スポーツ・レクリエーション活動の推進と各種スポーツ施設の整備・充実に努めていきます。

市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境づくり

地域防災力の向上を

近年の災害は、ゲリラ豪雨や内陸地震に見られるように複雑多様化しており、市民の安全・安心に対する関心が非常に高まる中、さまざまな局面において防災対策が求められています。

このような中で、防災訓練については、市民の防災意識の高揚や地域の防災力の向上を目的に、総合防災訓練を実施するとともに、水防技術の向上と水防体制の強化

を目的に、印旛地区水防管理団体連合会による水防訓練を、本市を会場として開催します。

大規模事故対策訓練については、航空機事故を想定し、空港内外において、行政・成田国際空港株式会社・医療機関をはじめとする関係機関が一体となり、総合的な活動の習熟を目的に消火・救難などの総合訓練を実施します。

また、災害の事前周知、避難場所への誘導、ライフラインの復旧状況などを伝える防災行政無線固定系を、現在の運用体制である3波体制から統合を図るとともに、高機能なデジタル方式とするための更新を行っていきます。

建築物耐震化を促進

市の施設の耐震診断・耐震改修の実施、木造住宅の耐震相談会の開催、耐震診断の支援をしています。また、新たに、木造住宅の耐震改修を支援することにより、建築物の耐震化の促進を図り、災害に強いまちづくりを推進していきます。

消防体制の充実

消防庁舎整備事業として、赤坂消防署公津分署が4月から業務を開始することにより、公津地区のさらなる消防体制の充実を図っていきます。また、赤坂消防署庁舎



4月に業務を開始した赤坂消防署公津分署

の老朽化に伴い建設工事の基本設計などを実施し、消防環境の整備に努めていきます。

消防車両や消防資機材の整備については、大栄消防署に配置されている水槽付消防ポンプ自動車の老朽化に伴う更新を行うとともに、新型インフルエンザに対応する資機材などの充実を図っていきます。

また、救急救命士の育成、市民への応急手当法の一層の普及などにより、救命効果の向上に努めていきます。

安全安心なまちに

本市では、「防犯まちづくり推進条例」に基づき策定した、防犯まちづくり推進計画により、市民

が安全安心に暮らせる地域社会を実現するため各種防犯施策を推進しています。特に、青色回転灯パトロール車を使用した防犯巡回指導員によるパトロールや、小中学生の通学路において防犯広報啓発パトロールを実施するとともに、JR成田駅西口に駅前番所を設置し、市民と駅利用者の安全確保に努めています。

平成21年度からは、この駅前番所事業を拡大し、現在防犯活動が不足している夜間や休日、犯罪抑止重点地区や主要公園・無人駅などの犯罪が発生しやすい場所を中心に、駅前番所機能を持つ青色回転灯パトロール車による駐留と巡回を行い、犯罪の防止活動に努めていきます。

「3R」の推進

地球温暖化対策や資源循環型社会の形成など、今日の複雑多様化した環境問題に積極的に取り組むため、「環境基本計画」や「一般廃棄物処理基本計画」に基づく施策を、市民・事業者の皆様と連携して展開していきます。

特に、市民の皆様にご協力をいただいている、ごみ処理対策事業については、今後、さらに発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)とい

う「3R」の方策を進めるとともに、確実な資源循環方策、環境負荷の低減なども重点事項とする、本市にふさわしい新たな処理体系の構築に取り組んでいきます。

新清掃工場の整備については、安全安心な施設の完成に取り組むとともに、新清掃工場から発生する余熱を有効に利用する温浴施設や多目的広場などの整備も平行して進めていきたいと思っています。

ごみの減量化については、引き続き、家庭用ごみ減量器具の設置に対する補助、地域のリサイクル活動団体への奨励金の交付などにより、ごみの減量化・再資源化を推進していくとともに、「ごみの分別区分」などの見直しについても検討していきます。

また、第1期のいずみ聖地公園拡張整備事業については、平成21年度の完成を目指して、引き続き必要な工事を実施していきます。

市民と行政が協働する効率的な自治体運営

最少のコストで最大の効果を

利便性の高い市役所を実現するため、昨年6月に試行的に導入した2年目を迎える市役所窓口の休日開庁については、本格実施に向けて、さらに効果や課題の検証を



毎月第2・4日曜日の「休日窓口サービス」

行っています。

また、新たな行政改革大綱の策定に取り組み、行政改革を一層推進するとともに、行政評価を活用し、最少のコストで最大の効果を挙げる行政運営に努め、市民と行政が協働で取り組む自治基本条例の制定について、市民参加による委員会組織で調査研究を進めていきます。

人と人とのかわりがますます希薄となる中、コミュニティ活動の活性化こそが市民福祉の向上に必要と考えており、その一つとして、公津の杜地区にコミュニティ機能を核とした複合施設を整備し、市民の自主的活動と世代を超えた相互交流の場を確保し、コミュニティの促進に努めていきま

す。

本当に役に立つ「所」へ

役所を批判する言葉に「縦割り行政、縦割り意識」というものがあります。もとより、一つの部署だけで完結できる課題は少なく、庁内組織の横断化・連携を深めたシステムの構築が求められています。そのためには、フラットワークが良く、できるだけフラットで効率的な行政運営を推進していかなければなりません。

「市役所は最大のサービス業」であるとの考えを基本とし、市民ニーズに的確に対応できる利便性の高い市役所を目指し、従来型の「お役所」から「市民のために本当に役に立つ所」へと転換するため、基本改革として、組織・機構の大幅な見直しを実施します。

21世紀の大転換期の中、「成田の未来はどうあるべきか」「本市の未来を築くために今、何をしなければならぬか」という大命題に対し、私は、12万5千市民が一体となって、温かみと優しい思いを持った「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」の次世代に誇れる空の港町、生涯を完結できるまち成田の創造に向けて、1、200人の職員の先頭に立って、全力で取り組んでいきます。